

2019/11/26 (火)

創立記念日

全校修養会 開会礼拝

聖書 ルカによる福音書 10章 25-37節 (新約 126頁)

25 すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」 26 イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、27 彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」 28 イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」

愛してくださった

本日、ここに静岡英和女学院は132周年の記念日を迎えました。創立以来、英和女学院が大切にしてきた聖書の言葉は「あなたの神である主を愛し、また、隣人を自分のように愛しなさい。」と言われたイエスの言葉です。そのために英和女学院は毎朝、礼拝を献げてきました。

まず礼拝で最も大切なことは神様の愛に触れることです。それはヨハネの手紙Ⅰに「わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。」(ヨハネの手紙Ⅰ 4章19節)とあるように、まず神様が私たちが愛されていることを覚えることが大切だからです。

でも私たちが神様に愛される理由とは何でしょうか。どうして私は生まれ、どうして英和女学院で学んでいるのでしょうか。ですから創立記念日は、英和女学院に集められたひとり一人が、まず、これまで与えられてきた神様の導きと恵みをふり返ることが大切です。

そして、私たちは隣人を自分のように愛する者とされていきます。それはもう自分が「生きている」というよりも、自分が神様のため、他者のために「生かされている」ということです。自分が生まれてきたこと

も、英和女学院で学んでいることも、そして神様に愛されている理由もそこにあります。

祈祷 祈りましょう

私たちが愛し、励まされる主よ。

あなたは昔、遠いカナダの地でカニングハム宣教師によき志を与え、この西草深の地に「静岡女学校」を設立して下さいました。あなたの深い摂理に心から感謝いたします。しかしこれまでの歴史の中にはキリスト教教育が禁止された時があり、また戦時中の静岡大空襲では校舎が全焼するという困難な時代もありました。戦後、再び同窓生はじめ海外の宣教師、信徒の方々からの祈りとご支援によって英和女学院は復興しました。

今、新たな時代を迎え、国内外には様々な困難な生活にある方々がおられます。どうか、英和女学院に導かれ、神様の愛に育まれる私たちひとり一人が、未来の困難な課題と向き合い、愛と奉仕の道へと歩むことができますようにお導き下さい。

どうか本日行われる全校修養会を祝福し、講師の秋岡陽先生、牧師先生方の上に恵みと導きをお与え下さい。この会を始めるにあたり言い尽くせない感謝と喜びと共に、このお祈りを主イエス・キリストの御名によってお献げいたします。アーメン